第3ステージ「学校評価の4点セット」 指標・取組内容設定例

学校の教育目標:変化の激しい将来を生き抜く、たくましい子どもの育成 目指す資質・能力:人間力・総合カニ変化の激しい将来を生き抜く力、答えのないような問題に答えを出す力等(学校全体で組織的に進めるカリキュラム・マネジメント〔改訂版〕P19参照)

資質・能力	学校の教育目標実現 のための課題を踏まえた 重点目標	重点目標に係る 目指すべき子どもの姿となる 達成指標 ※客観的データを活用		達成指標を達成する または近づくための 重点的取組	重点的取組に係る具体的な 取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で
	基本を大切にし、確実に身につける、児童生徒の育成	【知】 〇国・県・市の学力調査及び定期(単元)テストの全てで低学力層の割合5%以下 【徳】 〇「公正・公平」「相互理解・寛容」における道徳的価値の理解ができている児童生徒90%以上(学習記録より) 【徳】 〇「家庭での平日学習時間の平均:学年×10+10分を達成できている児童」「平均8時間以上の睡眠ができている児童」「平均8時間以上の睡眠ができている児童」90%以上。 【体】 〇体力・運動能力調査項目において、全国平均を上回る児童生徒が70%以上。また低体力層の児童生徒が5%未満	·校 +	学習規律の定着 学習状況に応じた個別指導の充実	〇授業者は、学年毎の学習規律の定着に向けた児童生徒への声かけを毎時間行う。 〇週4回20分間ののスタディタイムを組織的に取り組むため、全校一斉で行い、全職員で個別指導にあたる。
				新大分スタンダードに基づく授業改善 「公正・公平」「相互理解・寛容」を育む道徳科を中	○授業者は、まとめ・振り返りの時間を毎時間設定する。 ○授業者は、努力を要する児童生徒に対する手立てを講じた授業を毎時間行う。 ○授業者は、子どもの道徳性を育むため、毎時間、意図的計画的に学習状況を記録する。
【生きて働く知識及び				基本的生活習慣の定着を図るための「生活リズム 振り返りカード」の活用	○担任は月に1回「生活リズムの振り返り」を実施し、把握した状況を基に声かけをする。 ○授業者は、柔軟性及び握力の向上をねらったストレッチやサーキット運動を、毎時間体育の授業始
				柔軟性及び握力・持久力の向上	めに位置づける。
				1校1実践の推進	〇全教職員は、週2回の「筋力アップタイム(1校1実践)」に参加し、アドバイスや声かけを実施する。
				体力調査データの活用	○教職員は、学期に1回以上課題のある項目を中心に体力・運動能力調査を実施する。
技 能				メディアコントロールと読書習慣の定着	○保護者は、週1回のノーメディアデーには、親子読書や読み聞かせを行う。 ○保護者は、毎日「生活リズムカード」をもとに、学習時間、メディア時間、睡眠時間について、声かけ
の習得】				基本的生活習慣の定着	をする。
				望ましい生活習慣(食習慣)の確立	保護者は、毎日の朝御飯を食べさせる。 〇学校運営協議会学習支援部を中心に、地域へ声かけし、学期に延べ50人以上が丸付け支援に参
			地域	学校への丸付け支援	加する。
				学習習慣の定着	○放課後児童クラブにおける毎日の学習について、個々が集中して取り組むよう指導支援する。 ○学校運営協議会地域連携部及び学習支援部は、ゲストティーチャーによる授業、郷土学等の企画
				生活科・総合的な学習の時間への参画	運営に関与し、学期に延べ30人以上が学校支援に参加する。
				体力向上や食育等への支援 資料から必要な情報を読み取り、根拠を明らかに	ティーチャーをコーディネートし、特別授業を実施する。
Ţ	最後まで考え抜き、表現できる、児童生徒の育成	【知】 〇各教科の定期(単元)テスト, 評価テスト, ワークシートにおいて、記述式問題の無回答者の割合を10%未満、正答者の割合を80%以上 【徳】 〇ハイパーQU検査やアセス検査において、学級生活満足群の児童生徒が全国平均以上、要支援群の児童生徒数5%未満 【体】 〇「朝の運動タイム(1校1実践)」において、自分の目標を達成できた児童生徒90%以上 〇「自分の決めた時刻までに寝て決めた時刻までに起きる」規則正しい生活のできる子ども90%以上(生活チェック表より)	学校 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	する指導方法を工夫	〇各教科で資料から必要な情報を読み取り、まとめ、表現する活動を単元に1回以上実践する。
未知の状況にも対応でき				既習事項をもとに、自力で課題解決する授業の実 践	〇授業者は、学習内容の定着をめざし、授業終了5分前に、視点を明確にした振り返りをノート等に記述させる。
				授業改善による深い学びの実現	〇授業者は、月1回の振り返りシートを用いた互見授業を通して、授業改善に取り組む。
				生活科や総合的な学習の時間を中心に据えた深 い学びの実現	〇授業者は、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・発表の探究活動のプロセスを明確にした総合や生活科の授業を毎時間行う。
				いじめゼロ運動の推進	〇担当を中心に、人権集会やいじめに関する集会を生徒会(児童会)主催で学期に1回以上実施する。
				人間関係づくりプログラムの推進	〇学級担任及び担当は、15分程度の構成的グループエンカウンターやSSTを週に1回以上行う。
る思				朝の運動タイム「1校1実践」の推進	〇担当は担任と連携し、毎週金曜日の朝の運動タイム(晴天:マラソン、雨天:縄跳び)を実施し、子どもが目標を達成できるよう支援する。
考力				「睡眠時間」の必要性の指導	担任は、栄養教諭等と連携して、生活、食、運動の3つを関連させた睡眠の大切さについての授業を 学期に1回以上実施する。
· 判				計画を立てて行動する習慣の定着	〇保護者は、児童生徒と共に帰宅後の計画をたて、就寝時間までの学習時間やメディア時間についての声かけを毎日行う。
断 力				親子での会話の充実	〇保護者は、週に1回以上、子どもと学校での友だち関係や出来事等について話す機会を設ける。
表				食や運動習慣、睡眠時間についての取組	〇保護者は、生活チェック表を活用して、食事や運動習慣、睡眠時間等について、毎日声かけする。
現力の				生活科・総合的な学習の時間への参画	○学校運営協議会地域連携部及び学習支援部は、ゲストティーチャーによる授業、体験活動等の企画運営に関与し、学期に延べ30人以上が学校支援に参加する。
の 育 成				学校への訪問	〇学校運営協議会学習支援部及び地域連携部を中心に、地域へ声かけし、学期に延べ100人以上が授業参観や発表会を参観する。
				 体力向上や食育等への支援	○学校運営協議会学習支援部を中心に、学期に1回以上各種競技や柔軟運動、食育等のゲスト
学びに向かう力・人間性の涵養【学びを人生や社会に生かそうとする	苦手なことにもあきらめずにチャレンジする児童生徒の育成	【知】 〇各教科の定期(単元)テスト,評価テスト,ワークシートにおいて、記述式問題の無回答者の割合を10%未満 〇授業評価において、「授業内容がわかる」「意飲的に授業に取り組めている」 児童生徒の割合が90%以上 【徳】 〇ハイパーQU検査やアセス検査において、学級生活満足群の児童生徒が全国平均以上、要支援群の児童生徒数5%未満 〇「学校は楽しい」「友だちと仲良くすごしている」「友だちのいいところを発見しいる」「友だちのいいところを発見し、自分の良さに気づいた」の項目について、児童評価及び教職員評価(教師の見取り)の4評価が90%以上 【体】 〇体力・運動能力調査において、課題の種目の記録が向上した児童生徒が90%以上 〇「朝の運動タイム(1校1実践)」において、自分の目標を達成できた児童生徒90%以上	学校 家庭	学びを生かす振り返りの実施	ティーチャーをコーディネートし、特別授業を実施する。 〇授業者は、単元末に、学びを今後の生活に生かす視点での振り返りをノート等に記述させる。
				道徳性を育む道徳の授業実践	○授業者は、子どもの道徳性を育むため、毎時間、意図的計画的に実施し、毎時間学習状況を記録
				人間関係づくりプログラムの推進	する。 〇学級担任及び担当は、15分程度の構成的グループエンカウンターやSSTを週に1回以上行う。
				 他者理解及び自尊感情の涵養をめざした仲間づく	
				り(人間関係づくり)	さを知る収組を字期に2回以上は行う。
				相談活動の充実	○担任等は、QUやアセス等の結果を基に月に1回以上児童生徒の面談を実施する。 ○担任は郷土学に取り組み、学校外の人たちとコミュニケーションできる場を設定すると共に校内外
				地域の人とふれあう場の設定	に向けて発表する活動を学期に1回設定する。 〇担当は担任と連携し、毎週金曜日の朝の運動タイム(晴天:マラソン、雨天:縄跳び)を実施し、子ど
				朝の運動タイム「1校1実践」の推進	もか目標を達成できるよう支援する。
				親子ふれあいの取組み 	〇保護者は、週1回以上子どもの音読を聞いたり共に読書をしたりして会話に努める。
				あいさつと褒める声かけの推進	○保護者は、毎日「おはよう」等のあいさつや「認める・褒める」等の声かけをする。
				「家族ふれあいスポーツデー」の実施	〇保護者は、月に2回以上、週末に家族で運動し、親子でふれあう機会を設ける。
			'	徒歩登校、自力登校をさせる。	・保護者は、毎朝、集合地点から子どもを歩いて登校させる。
			・地	郷土学等への参画	〇学校運営協議会地域連携部及び学習支援部は、郷土学等へのゲストティーチャーによる授業、体験活動等の企画運営に関与し、学期に延べ30人以上が児童生徒とふれあう。
				 学校への訪問	〇学校運営協議会学習支援部及び地域連携部を中心に、地域へ声かけし、学期に延べ100人以上
				あいさつと温かい声かけの推進	が授業参観や発表会を参観する。 〇学校運営協議会環境整備部を中心に、登下校時の児童生徒に対するあいさつと温かい声かけを
Î				安心安全対策の推進	毎日行う。 〇学校運営協議会環境整備部を中心に、登下校時の見守り活動を、毎日行う。
				自力登校のサポート	〇学校運営協議会環境整備部を中心に、自力登校の見守り活動を月1回以上実施する。(小500m
				体育的行事への参観	前,中1km前登校) 〇学校運営協議会学習支援部及び地域連携部を中心に、地域へ声かけし、学期に延べ50人以上が
				1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	体育的行事に参観する。
			学		〇教職員は、カリキュラムや学校行事を見通したスケジュール管理(タイムマネジメント)を、月1回以上実施する。
					1
【 A	業	○月平均の時間外勤務時間を45時間	校		〇学校運営委員会を中心に、会議・学校行事の精選・見直しを学期に1回以上実施する。
働き	務 改	〇月平均の時間外勤務時間を45時間 以下にする	校	 	〇学校運営委員会を中心に、会議・学校行事の精選・見直しを学期に1回以上実施する。 〇PTA執行部や専門部は、生活や学習習慣改善のための取組や呼びかけを学期に1回以上実施する。
働き方改	務 改 善 の	以下にする 〇学校の教育活動がよりよいものに なっていると感じている地域・家庭・ボラ	校家	〇家庭や地域と協働し、効果的・効率的に児童・ 生徒の育成を図るための業務改善	OPTA執行部や専門部は、生活や学習習慣改善のための取組や呼びかけを学期に1回以上実施す
働き方	務 改 善	以下にする	校家		OPTA執行部や専門部は、生活や学習習慣改善のための取組や呼びかけを学期に1回以上実施する。 OPTAと学校運営協議会が連携して、登下校や校外学習時の見守りや交通安全指導を計画的に実